

公益財団法人 大学セミナーハウス
2021年度事業計画

1. 法人の概況

大学セミナーハウスは、多摩丘陵の広大な自然の中にある「開かれた教育研修施設」である。豊かな自然の中で学生と教員が寝食を共にして、学び交流する場として、毎年国内外から多くの方々に利用されている。

常に創設の理念に基づき、大学教員と学生および社会人に、教育研修の宿泊施設を提供しながら、学生対象のセミナーだけでなく大学教員・職員・社会人対象の主催セミナーの実施にも力を注ぎ、日本の高等教育に少なからぬ貢献を果たしてきた。

沿革

- 1962年 財団法人大学セミナーハウス設立
- 1965年 開館 開館記念・第1回大学共同セミナー
- 2005年 開館40周年 留学生会館落成
- 2006年 さくら館開館
- 2011年 公益財団法人へ移行
- 2016年 開館 50 周年記念会・新食堂棟「Dining Hallやまゆり」落成祝賀式
- 2019年 行政庁を東京都から内閣府に変更(2019年3月26日付認定)

敷地面積 約74,000m²

宿泊収容定員 271人/1日＋留学生会館利用(最大25人)

会員 協力会員32校 準協力会員2校 賛助会員8法人 千人会会員215人(2020/10/31現在)

2. 基本方針

2020年の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け宿泊・研修での利用が激減し、各種セミナーのあり方も一変した。2021年度事業計画では、こうしたコロナ禍の影響による生活様式の変化はもとより利用者のニーズ、高等教育の新局面などセミナーハウスを取り巻く環境の変化への対応を踏まえながら計画策定にあたった。

開館50周年を機に50年後を見据えて掲げた3つの「セミナーハウスVISION」を基本的には踏襲しつつ、計画実現に向けて鋭意取り組むこととする。

VISION 1 理念の実現

1. 豊かな自然環境の中で学生と教員とが起居を共にし、思索・討議し、談話を交え、人格的接触を図るための場を提供する
2. 国公立の壁を越えた学生、教職員の学びと交流の場を提供する

VISION 2 伝統の継承

1. 高等教育の発展に貢献すべく多様なセミナー事業を企画・展開していく
2. 全国大学の学生、教職員のための研修プログラムを一層充実させていく

VISION 3 新たな展開

1. ドローン研修、*ハイブリッド型イベントなど、利用者からの新たなニーズに対応した環境整備とサービス提供を行う
2. 自宅受験システムを備えた e ラーニングによる教員免許状更新講習を拡大展開する
3. 体験型プログラム「SPA」を大学セミナーハウスの付加価値として利用者に提供する

*ハイブリッド型イベント：会場参加とオンライン参加の同時双方向で実施する学会、セミナー、会議など

3. 2021年度事業計画の重点施策

【宿泊事業収益と会費収入に依存した経営からの脱却】

大学セミナーハウスは、これまで収益の中核である宿泊事業と会員からの会費収入により財政的安定をはかりながら、セミナー事業によって「大学という機構の外にあって、大学教育並びに大学相互の交流に協力する」という使命をはたしてきた。

しかし、コロナ禍による「非接触ニーズ」の高まりは、宿泊事業に壊滅的なダメージを与え、数年で利用者を取り戻すことができるかどうかも予測不能である。また、大学の現状を考えると会員増による会費収入の増収は見込めない。つまり宿泊事業収益と会費収入に依存した経営から脱却しつつ財政基盤を強化することが喫緊の最重要課題なのである。

【eラーニング事業を収益の中心に】

2020年度におけるeラーニングによる教員免許状更新講習の受講料収入は大きく増加しているものの、今後の競合他機関の動きや教員免許状政策の推移などに大きく影響を受けるのは明らかであり、長く安定的に収益が見込めるかどうかは不確定である。

2021年度事業計画では、不確定とは言え今年度実績を上げたeラーニング事業を収益の中心に据え、宿泊者数は2020年度を大幅に下回る数を見込まざるを得ない。

【中長期的な視点での広報・営業活動】

一方、中長期的な視点での新たな需要掘り起こしのための広報・営業活動にも力を注ぐとともに、これまで以上に大学セミナーハウスの魅力を広く情報発信することとした。

【3つのVISIONの実現を目指した重点6項目】

2021年度においては、3つのセミナーハウスVISIONを見据えつつ、具体的な事業計画を実現するために、以下の重点6項目を掲げる。

I. セミナー事業等の充実

II. 新たなニーズに対応した環境整備

III. 宿泊利用者拡大施策

IV. 広報活動の強化と連携・協力体制の構築

V. 財政の基盤強化

VI. 法人としての基盤整備

2021年度 大学セミナーハウス事業計画の概要図

大学セミナーハウスを取り巻く環境の変化

- 研修宿泊施設としての市場価値の変化
 - 宿泊研修・ゼミ合宿ニーズの縮小(コロナの影響大)
 - 当施設の老朽化
 - コロナ感染予防対策の必要性
 - ドローン研修・オンライン関係設備等新たな需要拡大
- 協力会員大学の宿泊利用者数の減少
- 各大学の国際寮建設による留学生会館利用者の減少
- セミナー及び学会等のオンライン化
(ハイブリッド方式の需要拡大を視野に環境整備)

設立時の理念

大学という機構の外にあって、
大学教育並びに大学相互の交流
に協力する

国公立大学が教育活動を通じて相互交流する場

大学セミナーハウス ビジョン

- VISION1 理念の実現
- VISION2 伝統の継承
- VISION3 新たな展開

重点施策 6項目 I ~ VI

I セミナー事業等の充実

- ・主催セミナーの活性化 (設立理念の実現)
- ・eラーニング事業の展開(収益の中心)
- ・SPAプログラムの提供(コロナの影響直撃)

II

新たなニーズに対応した環境整備

- ・ドローン関係利用者への対応
- ・ハイブリッド方式イベントの実施環境整備
- ・オンライン決済の導入

III

宿泊利用者拡大施策

- ・施設・設備の修繕と備品の充実
- ・コロナ感染予防対策の徹底
- ・ハイブリッド方式イベントの実施環境整備
- ・特性を活かした利用促進(ドローン・音楽・建物・測量等)
- ・留学生会館の用途変更(一般宿泊利用も可)

IV

広報活動の強化と連携・協力体制の再構築

- ・近隣住民へのポスティングによる認知度向上
- ・SNSの積極的活用
- ・全会員との関係深化(協力会員協議会運営委員会 2020年度新設)
- ・関係周辺組織等との連携強化(八王子コンベンション協会等)

V

財政の基盤強化

- ・収益性を見据えた中長期的資金計画の策定
- ・事業計画ごとの目標設定と収支の健全化

VI

法人としての基盤整備

- ・組織内協力体制の強化
- ・情報の共有と広報マインドの醸成
- ・関係規定の整備

4. 重点6項目の具体的施策

I. セミナー事業等の充実

(1) 主催セミナーの活性化(設立理念の実現)

2018年度の中国セミナー、古代史セミナー、2019年度のアメリカセミナーの新規開催など拡充を進めてきたが、2020年度コロナ禍の影響で6ページの図にある通りオンライン中心の開催となった。主催セミナーの2021年度実施の詳細については、運営・企画委員会に委ねるが、事業計画では2019年度実績通りとする。

【大学教職員対象】

① 新任教員研修セミナー

2020年度 8月31日(月)～9月1日(火) 2日間オンラインセミナー
2021年度 継続実施2泊3日(実施の方向で検討)

② 大学職員セミナー

2020年度 10月31日 1日オンラインセミナー
2021年度 2回実施(都心日帰り・大学セミナーハウス1泊2日の方向で検討)

【グローバルアカデミーセミナー】(学生・社会人対象の国際セミナー)

③ EUセミナー

2020年度 非開催
2021年度 継続実施 2泊3日(実施の方向で検討)

④ 現代中国理解セミナー

2020年度 非開催
2021年度 継続実施 1泊2日(実施の方向で検討)

⑤ アメリカセミナー

2020年度 10月3日 1日オンラインセミナー
2021年度 継続実施1泊2日(実施の方向で検討)

【対象を限定しないセミナー】

⑥ 憲法セミナー「憲法を学問する」

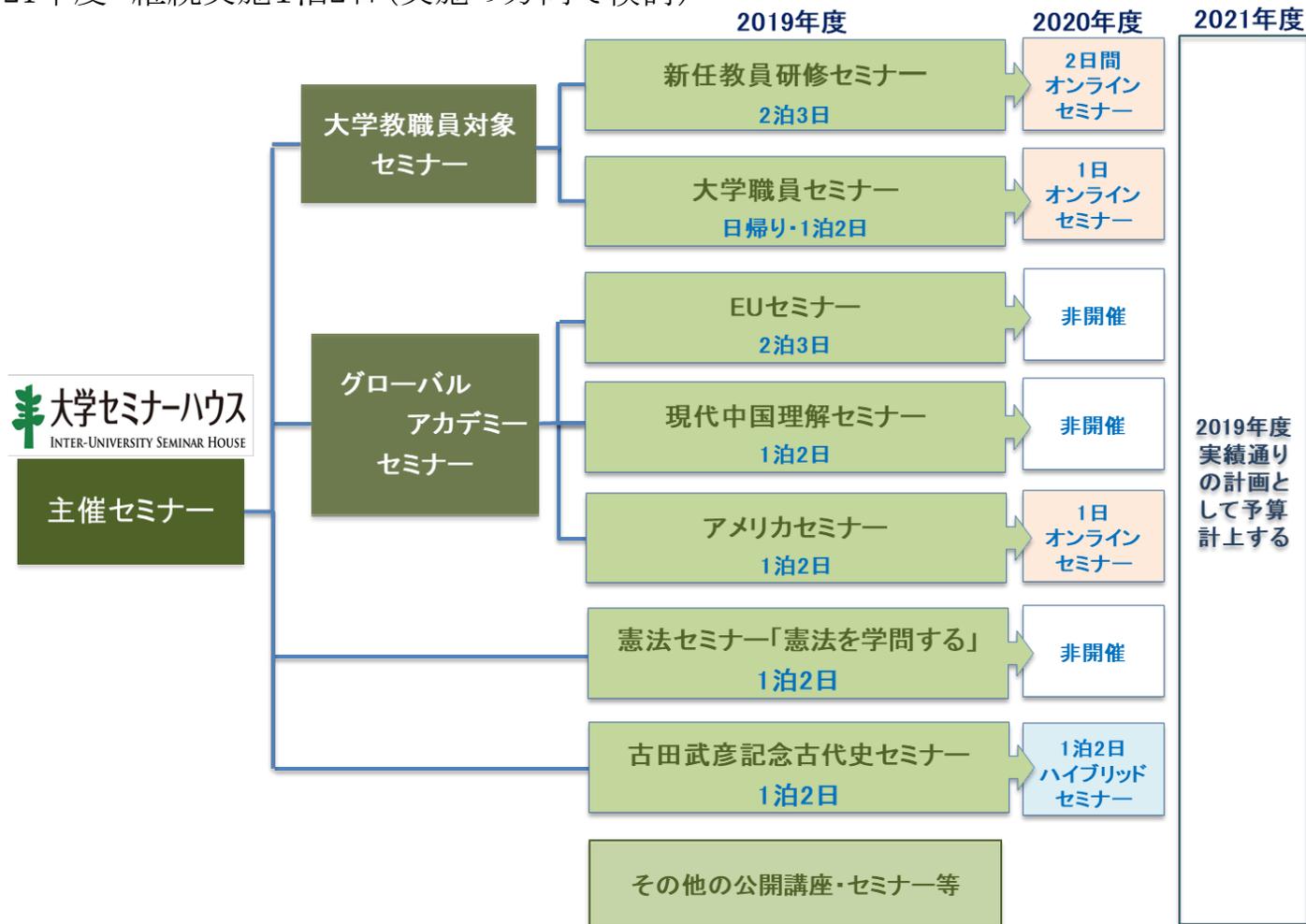
2020年度 非開催

2021年度 継続実施1泊2日(実施の方向で検討)

⑦ 古田武彦記念古代史セミナー

2020年度 11月14日(土)・15日(日)2日間 ハイブリッドセミナー

2021年度 継続実施1泊2日(実施の方向で検討)



ハイブリッドセミナー:会場参加とオンライン参加の同時双方向で実施するセミナー

(2) eラーニング事業の展開(収益の中心)

教員免許状更新講習

2018年度から自宅受験が可能なシステムとなり、2019年度末から受講者数が劇的に増加している。協力校(関西国際大学・活水女子大学)を申し込み窓口とした受講・受験も可。

2020年度に新たな講習コンテンツを以下の通り制作し、2020年11月10日に受講を開始した。

『教室で役立つ「通じるための英語」』

『気づきを大切に作る小学校での英語教育』

『現代社会と幼児教育』

2021年度については、さらに「幼児教育」に関するコンテンツを2講習制作する。

講習単価9,000円

	事業計画 予算数値	実績講習数 (2020年度推定)	実績収入(円) (2020年度推定)
2018年度	1,200講習	4,971講習	44,739,000
2019年度	2,000講習	14,999講習	134,991,000
2020年度	7,500講習	30,000講習(推定)	270,000,000
2021年度	25,000講習		225,000,000

2021年2月20日現在実績は2*,***講習

2021年度予算計上内訳

セミナーハウス	24,000講習
協力校	1,000講習
計	25,000講習

2019年度協力校実績：611講習(4%)

2021年度協力校予算：1,000講習

(3) SPAプログラムの提供(コロナの影響直撃)

2018年度からSPAプログラム利用者が増加し、2019年度も利用者数をほぼ維持できていたが、2020年度はコロナ感染症拡大の影響が直撃して利用者は激減している。

2021年度もコロナ禍の影響は避けられないと思われる。

(4) 留学生支援

- ①留学生会館の留学生利用の減少(利用対象を一般宿泊利用者に拡大)
- ②留学生論文コンクールの継続

Ⅱ. 新たなニーズに対応した環境整備

(1) ドローン関係利用者への対応

ドローンに最適な環境を前面に打ち出し関係団体の誘致に力を入れるとともに、ドローン研修、説明会等に必要な設備・備品等をセミナーハウスに備える。

また、リスク軽減や関係団体との対応のために、宿泊事業部スタッフが無人航空機操縦技能と安全運航管理者の資格を2020年度に取得し、対応にあたる。

(2) ハイブリッド方式イベントの実施環境整備

2020年度はオンラインによる主催セミナーが何回も行われたが、今後は利用者から学会、セミナー、会議等をハイブリッド方式で開催したいとの要望が増加すると思われる。

そうしたニーズに応えられるよう、音響(マイク・スピーカー)、映像(カメラ、スイッチャー兼キャプチャーボード)の設備を整えるとともに増大する通信量に対応するべくネットワーク環境を強化する。

(2020年11月14日・15日ハイブリッドセミナーとして開催された古代史セミナーで活用)

(3) オンライン決済の導入

教員免許状更新講習受講料(2020年度10月)・主催セミナー参加費(2021年度4月)のオンライン決済化(お客様の手数料負担の軽減と収入管理の合理化が見込まれる)

これまでの銀行振込に加えて、利用者の振込手数料負担をなくしたクレジットカード決済、コンビニ決済、銀行決済Pay-easy(ペイジー)を導入。

(4) JMOOCとの連携のあり方について検討

「良質な講義」による学習機会を提供するというJMOOC(日本オープンオンライン教育推進協議会)のミッションと、教員と学生が学び交流する場を提供し大学相互の諸活動を円滑にするという当法人の公益目的を共に果たしながら、新たな成果に結びつける有効な連携のあり方を協議・検討する。

Ⅲ. 宿泊利用者拡大施策の展開

過去4年間の宿泊利用者数と宿泊事業収益の推移は以下の図表の通りである。

＜参考＞過去4年間の宿泊事業収益の推移と2020年度推定

	上期（4月～9月）			決算額	上期率
	学生	社会人	計		
2016年度	72,553,047	23,496,759	96,049,806	158,574,507	60.6%
2017年度	64,247,994	23,258,396	87,506,390	151,986,211	57.6%
2018年度	75,567,684	26,696,373	102,264,057	164,546,715	62.1%
2019年度	72,953,773	28,049,494	101,003,267	142,393,946	70.9%
2020年度	5,409,723	5,847,861	11,257,584	17,983,361	62.6%
内 訳	宿泊	4,485,280	1,998,200	6,483,480	2020年度決算額：推定額 2020年度上期率：過去4年平均
	その他	924,443	3,849,661	4,774,104	

内訳・その他：研修室・施設・機器利用、印刷代

（社会人・その他 3,849,661円のうち撮影による利用：3,544,225円）

月別宿泊利用者数の過去4年間推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	学生	社会人
2016年度	3,719	2,022	1,744	2,972	5,246	3,595	2,052	1,670	1,450	1,397	2,818	3,074	31,759	26,452	5,307
2017年度	3,294	1,546	1,786	2,652	4,452	3,583	1,706	1,682	1,839	1,027	2,553	3,633	29,753	24,610	5,143
2018年度	3,645	2,033	2,643	2,974	5,107	3,395	1,455	1,694	2,266	1,113	2,038	3,540	31,903	25,474	6,429
2019年度	3,085	2,239	2,294	3,101	4,877	3,408	1,290	2,132	1,635	355	1,930	259	26,605	20,744	5,861
2020年度	127	0	14	130	207	317									

：新型コロナ感染拡大の影響

上期計 795

2021年度の宿泊利用者数

目標値：10,000人

予算数値：10,000人

予算内訳：学生7,500人 社会人 2,500人

宿泊収容人員 271人
年間収容定員 97,560人
年間開館日数 360日

◆ 宿泊利用者数の拡大を目指して、以下の(1)～(5)の取り組みを推進する。

(1) 施設・設備の修繕と備品の充実

2020年度の主な取り組み(2020年度中に執行・執行予定)

- ◆ 教員免許状更新講習eラーニング顔認証システム開発
- ◆ 教員免許状更新講習eラーニングコンテンツ著作権料
- ◆ eラーニング事業部 事務用プリンター
- ◆ 講堂・多目的ホール 机・椅子
- ◆ 講堂 換気設備

- ◆ 長期館 B 屋上防水工事
- ◆ 記念館 A セミナー室 プロジェクター
- ◆ 留学生会館 外壁工事
- ◆ ハイブリット方式イベント関係設備・備品
- ◆ オンライン決済システム開発 (eラーニング事業)

2021年度の計画(現段階での予定)

- ◆ 国際館 客室14室・セミナー室4室ドア交換
- ◆ 国際館 屋上防水工事
- ◆ さくら館 冷暖房取換 1階・2階 21個
- ◆ 松下館 タッチパネルドアキー交換
- ◆ 国際館 タッチパネルドアキー交換
- ◆ オンライン決済システム開発 (セミナー事業)

(2) コロナ感染予防対策の徹底

2021年度も引き続き下記の予防対策を徹底する。(コロナの感染状況確認の上対処)

1. 各種予防対策

- ビニールカーテンを設置…本館/ 食堂
- 換気…フロント/ セミナー室/ 宿泊室→協力依頼
- 手指消毒液の設置、貸出
- 共有スペース座席数の削減…本館ロビー、ラウンジ
- 清掃時、消毒の徹底
- お客様へのお願い (掲示) マスク着用とソーシャルディスタンス
- スタッフの健康管理… マスク着用と手指消毒 / 検温と体調管理

3. 食事の提供

- 食堂テーブルにアクリル板を設置
- 朝食・昼食・夕食とも時間指定で混雑回避
- 食堂座席数：100席程度に制限
- 朝食は定食スタイル
- 昼食夕食は定食または弁当の選択が可能
- BBQは昼夜それぞれ1組限定で利用

2. 利用料金

- 複数人数部屋のシングル利用による割増なし
- セミナー室料金を割引

(3) 特性を活かした利用促進

① ドローン関係団体の誘致

ドローンの飛行場所として最適な環境を前面に打ち出し、関係団体の研修等を誘致する。

② 建造物としての価値を利用した見学ツアー等の企画

○DOCOMOMO Japan 1999年日本の代表的近代建築20選に選定

○本館が2017年3月に東京都歴史的建造物に選定（ル・コルビュジエの弟子である吉阪隆正氏の設計）

○「Dining Hall やまゆり」が2019年度東京都主催「ウッドシティTOKYOモデル建築賞」の奨励賞を受賞

③ 測量実習に利用

広い敷地と起伏に富んだ地形が測量実習に適している。

④ 音楽関係者の利用

防音設備を完備した講堂および中央セミナー室は楽器演奏や合唱の練習場所として適している。

(4) 留学生会館の用途変更（一般宿泊利用も可）

留学生会館の個室（25室）で一般宿泊利用者の個室需要に応える。（既存施設の個室は20室）

*2020年5月13日開催の理事会の承認を得て、日本学生支援機構に一般利用も可する用途変更の手続きの申請をした。先日（10月30日）用途変更について承認されたので、本日の報告事項に掲げた。

(5) お客様ファーストの実現

アンケート調査の回収率の向上とお客様の声の見える化・組織内共有

安全・安心の宿泊・利用環境の提供（コロナ感染予防対策など）

期待通りの環境・サービスの提供（顧客満足）から期待を超えた環境・サービス提供（顧客感動）へ

IV. 広報・営業活動の強化と連携・協力体制の再構築

(1) 広報・営業活動の強化

- ① 近隣住民へのポスティングにより認知度向上を図る
(2020年度新規10月末までに4,000枚配布済、2021年度継続)
- ② ホームページの更なる充実(随時修正・改善)
CMSによるページ作成者の増員
- ③ 独自メディアの発行(継続)
「セミナーハウスニュース」「FANBOOK」「メールマガジン」「法人案内」
- ④ SNSの積極的活用
「フェイスブック」「ツイッター」「インスタグラム」の活用と広告掲載の検討(2021年度)

(2) 連携・協力体制の再構築

- ① 全会員との関係深化(協力会員協議会運営委員会 2020年度新設)
協力会員・準協力会員・賛助会員から各1名委嘱された運営委員による運営委員会の開催
- ② 八王子市と八王子観光コンベンション協会等との連携
コンベンション協会(2020年度から会員)
大学コンソーシアム八王子(会員)
学術・文化・産業ネットワーク多摩(会員)
- ③ アートビレッジの利用者との協力関係・連携を強化
アートビレッジ連絡会の開催
- ④ 地域の各種会合への積極参加と広報・営業活動
八王子商工会議所、八王子法人会、倉郷自治会との連携

近隣の皆様へ
どなたでもご利用いただける
大学セミナーハウス
野猿峠から徒歩5分
日帰り利用もOK!

少年サッカー OK!
多目的広場は、少年サッカーにご利用いただけます。

音楽練習 OK!
楽団、合唱団の皆様にご利用いただける防音設備のセミナー室が2棟あります。

会議会合、在宅ワーク OK!
緑豊かな環境の中で、大小様々な会合や、在宅ワークにもご利用いただけます。

7万㎡の敷地には、86室(271名)の宿泊室と、少人数から150名まで利用できる20室のセミナー室

1965年築の大学セミナーハウスは、世界的な建築家、コルヒョウジエの設計を受けた高層塔の設計です。ことに「大地に地の魂(きまひ)を打ち」をコンセプトとした本館は、建築と評価も高く、1999年、DOCOMOMO Japan「日本におけるモダンムーブメントの遺産 No.019」に選ばれました。さらに80年という歴史の価値も加わり、2017年3月には「東京都認定歴史的建築物」にも指定されています。
また、東京都主催の「ウッドシティ TOKYO モデル建築物」の候補賞(産業労働教育)を受賞した食堂「DINING HALL やまゆり」は、木材の香りが漂い、明るく開放的な心地よい空間で、好評をいただいております。

大学セミナーハウス施設地図

近隣配布チラシ(裏面もあり)

V. 財政の基盤強化

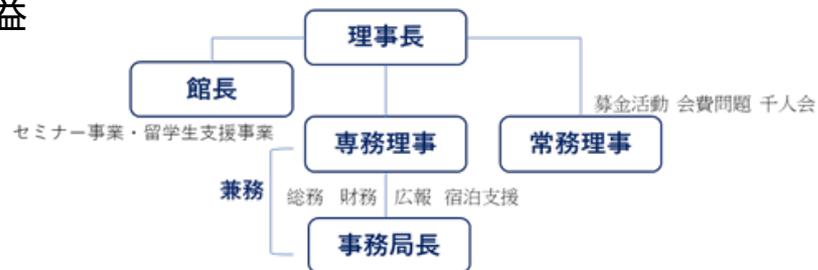
(1) 収益性を見据えた中長期的資金計画の策定

- ① 収益直結の宿泊環境整備・改善計画の策定
- ② 今後の建物のライフサイクルコストの算定と中長期修繕計画の策定

(2) 事業計画ごとの目標値設定と収支の健全化

- ① 会員基準の改正に伴う新規会員の開拓
- ② 各事業収益の向上と経常増減額の改善
- ③ eラーニング教員免許状更新講習における受講料収益の維持向上

<参考> 事務局組織 2020/11/01現在



VI. 法人としての基盤整備

(1) 組織内協力体制の強化

(2) 情報の共有と広報マインドの醸成

(3) 関係規定の整備

